

・ホームページをリニューアルしました！



国立大学法人 福井大学附属国際原子力工学研究所
〒914-0055 福井県敦賀市鉄輪町 1 丁目 2 街区 4
TEL:0770-25-0021(代表) FAX:0770-25-0031 <http://www.rine.u-fukui.ac.jp/>

2015年7月発行

福井大学附属国際原子力工学研究所ホームページリニューアル & 原子力防災・危機管理部門ホームページ開設

福井大学附属国際原子力工学研究所(敦賀キャンパス)は、研究所のホームページをリニューアルしました。これに合わせて原子力防災危機管理部門のホームページも開設しました。研究所の様々な活動を紹介したり、防災協定を結んでいる敦賀市と協働で行なう取組みの内容などを紹介しています。

今後、学校教材に活用できるようなコンテンツも用意します。また、一般の方が見学できる展示室や防災講座の申込みページなどもありますので、是非一度ご覧下さい！



上のQRコードから
入れます！

2016年度・福井大学大学院の入試説明会が開催されました

5月23日、2016年の入学希望者を対象とした「福井大学大学院工学研究科博士前期課程」の入試説明会が開催されました。福井大学の文京キャンパスで学んでいる学生や、研究所での研究を希望している他大学の学生など、全国から多数の学生が参加しました。

参加学生は、各部門教授から研究分野や研究室の説明、研究所内にある様々な実験装置の説明を受け、興味深く熱心に耳を傾けていました。



救急救命・AED講習を開催しました

6月18日、敦賀美方消防さんをお願いし、救急救命・AED講習を開催しました。この講習は普通救命講習3時間のコースで、教員8名・学生17名・職員6名の合計31名が参加しました。はじめに救急救命のDVDを観た後、実際にダミー人形を使って人口呼吸や心肺蘇生の訓練をしました。



告知

福井大学敦賀キャンパス



10月4日★一般公開のお知らせ

今秋10月4日、敦賀キャンパスにおいて年に1度の“一般公開”が開催されます！

この日は、普段入ることのできない研究所内の実験装置が見学できたり、研究所が普段どういった活動をしているかなどがご覧いただけます。予約制の展示室もこの日はオープンになっており、お子様連れの方は中のキッズスペースでくつろいで頂くことも出来ますので、皆さん是非足を運んでみてください。

詳細が決まりましたら、研究所ホームページやポスター等でお知らせします！

～「福島の今を知る」学外活動を開始します～

福井大学は「貢献しながら学ばせていただく」をキーワードにこれまでもいろいろな形で福島の復興に携わっております。経済産業省資源エネルギー庁が推進する「草の根NPO等活動支援」に応募し、「福島と福井をつなぐ医工連携・学生の輪」という、工学部と医学部の学生がチームとなり福島の実情を学ぶ企画が採択されました。

この企画では、福島において避難解除された後に帰還されている方々や支援活動をする関係者の方々の話を聞き、放射線測定などの貢献をしながら、今後継続的にどのような支援が必要かを学ぶことを目的としています。福井においては、研修の状況を学生が取りまとめ、大学の場で一般の方々に伝えることで支援や学びの輪を広げようと考えています。

学生たちは、敦賀で、まず復興に関わってきている教員から実情、事故の経緯とこれまでの国の対応、放射線に対する注意事項を学びます。福島県では川内村にある長崎大学の復興拠点を活用し、現地で活動する方々に支援を受けながら、住民の方々が望む放射線計測をしたり、事故後の生活について住民の方々の話を傾聴したりします。敦賀に戻った後は、一連の活動を報告会を通じて皆様にお知らせする予定をしています。敦賀での活動には、皆様に参加いただけるよう案内をいたします。

※川内村は平成26年10月に避難指示解除がなされ、現在は約6割の住民の方々が帰還されています。

PICK UP

学外講義 & 講演活動 敦賀市内の幼稚園で講演を行いました

4月24日、敦賀市内の幼稚園で原子力防災・危機管理部門長 安田教授による原子力防災をテーマとした講演会が行われ、保育士の方々を対象に原子力災害における防災のポイント、放射線についてのお話をさせて頂きました。



今後も各地で各種講演をさせて頂きたいと思います。講演ご希望の方はお気軽に研究所までお問い合わせください。<研究所事務室TEL：0770-25-0021>

行って
みよう!

お邪魔します★展示室

このコーナーでは毎回展示室の内容をピックアップしてご紹介したいと思います!

No.1 非常食・非常用持ち出し袋

1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに、急速にその名前が知られるようになった非常用品や非常食。備蓄品として普段の備えから非常持ち出し用、今では非常用品一式が詰め込まれた女性用・子ども用の非常持ち出しリュックなどその種類やバリエーションも実に様々ですが、実際どれくらいの家庭でこういったものが準備されているのでしょうか。皆様のご家庭でもチェックしてみてください!



海外からの研修生を紹介します

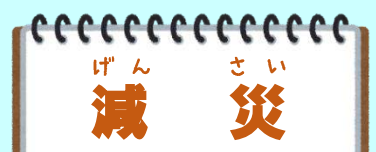
Mr.NIGBUR CORBINIAN*ニグブル・コアビニアンさん

今年5月から留学生として研究所に来ているニグブルさん。ドイツのアーヘン工科大学の大学院生で、明るく積極的な彼は、研究のかたわら週1回の日本語レッスンにも精力的に取り組んでいます。



- ★好きな食べ物：天ぷらのエビ
- ★日本に来て驚いたこと：
電車に乗る際、乗客が並ぶ事。ドイツでは並ばないので大変。
- ★日本の印象：日本は研究者にとって素晴らしい環境だと思った。
- ★ここ(研究所)で学びたいと思った理由：
母国では原子力を学ぶ上で複数の分野の事を学ぶ事はできないが、ここでは環境問題に絡めて原子力や放射線など様々な事が一度に学べるので魅力的だと思った。
- ★メッセージ：
先生や学生が休日も職場に来て仕事(勉強)をしている事に驚きました。敦賀はとても美しい街です。外に出て家族や友達との時間も大切にしたいと思う☆

今月の防災単語



減災とは、災害による被害をあらかじめ想定した上でその被害をできるだけ小さくするとりくみのことです。

キラリ☆Face



国際交流・人材育成推進部門長
原子力防災・危機管理部門
教授

泉 佳伸

マイクロ波技術でDNA損傷を評価する新しい手法を開発しています。放射線化学・生物学の境界領域で楽しいです。